

様式第5号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画	
1	教育実習等の内容及び成績評価等
①	教育実習等の時期 4年次9月を原則とする。
②	教育実習等の実習期間・総時間数 中学校：4週間（160時間） 高等学校：2週間（80時間）
③	実習校の確保の方法 大学所在地の近隣自治体の教育委員会及び高等学校より教育実習生の受け入れの承諾を得ている。併せて学生の教員採用試験に関する希望等を考慮して、出身地等での受け入れ依頼も随時行っていく。
④	実習内容 中学校：学校経営・教育事務一般、学級経営、生徒指導、教育相談、キャリア教育、人権教育、安全教育等の研修。 教科指導・特別活動指導の参観・実習（全授業60時間の中に授業参観20時間、授業担当10時間、研究授業1時間を含む、指導計画案・学習指導案の立案と作成を含む）、給食の時間における指導の補助、生徒集会・委員会・クラブ活動、学校行事等への参加等。 高等学校：学校経営・教育事務一般、学級経営、生徒指導、教育相談、キャリア教育、人権教育、安全教育等の研修。 教科指導・特別活動指導の参観・実習（全授業30時間の中に授業参観15時間、授業担当5時間、研究授業1時間を含む、指導計画案・学習指導案の立案と作成を含む）、給食の時間における指導の補助、児童集会・委員会・クラブ活動、学校行事等への参加等。 なお、上記の実習における放課後の研究指導、学級経営への参加、学校行事への参加、クラブ活動指導等への参加等については実習校との事前協議によって決定する。
⑤	実習生に対する指導の方法 担当専任教員及び事務局（教育推進部）職員が実習校の実習担当教員及び実習指導教員と打ち合わせを行い、教育実習生を指導する。実習中は、専任教員が実習校を訪問し、実習校の指導教員と情報交換を行うとともに、研究授業等を含めて教育実習生を指導する。
⑥	実習の成績評価（評価の基準及び方法） ※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。 実習における保健活動（基礎的な知識・技能・一般的な教養、授業前の教材研究・指導計画、指導技術・態度、授業後の評価・反省）、日常の指導（生徒の理解、個別・集団指導、その他の教育活動）、実習態度（勤務態度・熱意、事務・実践の処理、教育的視野）、実習の事前指導・事後指導における理解・技能・態度等によって評価する。
2	事前及び事後の指導の内容等
①	時期及び時間数 事前指導：4年次4月～8月の実習前15時間 事後指導：実習後2時間

② 内容（具体的な指導項目）

事前指導：オリエンテーション、教育実習の意義と目的、生徒理解、実習準備、学習指導案や実習日誌の作成、模擬授業と討議会等、実習生としての心得

事後指導：実習を振り返って成果と課題

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称

教育実習等専門委員会

- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）

委員長 1名（教育学部現代教育学科 教授）

副委員長 1名（教育学部現代教育学科 教授）

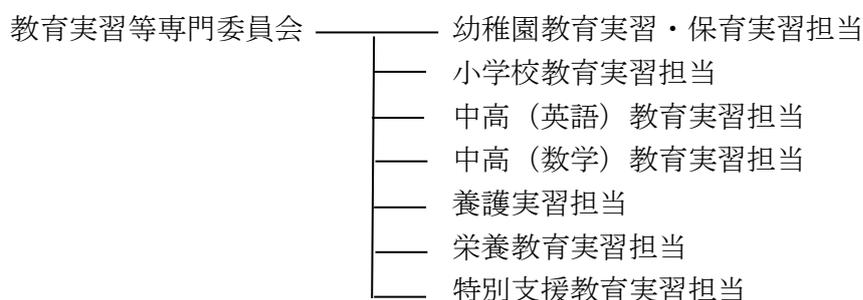
委員 10名（健康科学部看護医療学科 教授、同学部健康栄養学科 准教授、同学部人間環境デザイン学科 教授、教育学部現代教育学科 教授3名、准教授3名、講師1名）

事務 3名（教育推進部次長及び課員2名）

- ・ 委員会等の運営方法

議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

【委員会の組織図】



② 大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

- ・ 委員会等の名称

教育実習等専門委員会

- ・ 委員会等の構成員（役職・人数など）

委員長 1名（教育学部現代教育学科 教授）

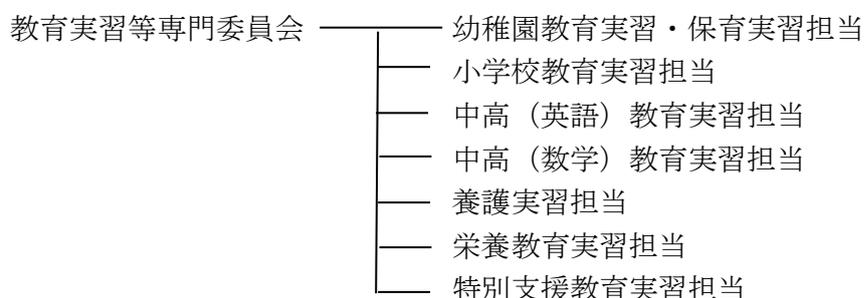
副委員長 1名（教育学部現代教育学科 教授）

委員 10名（健康科学部看護医療学科 教授、同学部健康栄養学科 准教授、同学部人間環境デザイン学科 教授、教育学部現代教育学科 教授3名、准教授3名、講師1名）

事務 3名（教育推進部次長及び課員2名）

- 委員会等の運営方法
議題が生じた際に委員長が委員を招集し、運営にあたる。

【委員会の組織図】



4 教育実習の受講資格

- 以下の科目の単位をすべて修得済であること。

「代数学Ⅰ」「幾何学Ⅰ」「幾何学Ⅱ」「解析学Ⅰ」「確率・統計学Ⅰ」「確率・統計学Ⅱ」
「コンピュータ概論」

「教育原理」「教職概論」「教育心理学」「教育課程論」「教育方法・技術論（総合的な学習の時間の指導法を含む）」「教育相談（中等）」

- 以下の科目から2科目以上単位修得済または実習当該年度に履修すること。

「数学科指導法Ⅰ」「数学科指導法Ⅱ」「数学科指導法Ⅲ」「数学科指導法Ⅳ」

5 実習校

教育実習	体験活動	学級数の合計	中学校 168 学級、高等学校 54 学級	
○		学校名	奈良県立畝傍高等学校（奈良県橿原市八木町3丁目13-2） 学級数：27学級 生徒数：1,082人	
		教員数	65人（内訳）教諭57人、助教諭0人、講師6人、養護教諭1人、養護助教諭1人、栄養教諭0人	
○		学校名	奈良県立高田高等学校（奈良県大和高田市磯野東町6-6） 学級数：27学級 生徒数：1,082人	
		教員数	63人（内訳）教諭54人、助教諭0人、講師7人、養護教諭1人、養護講師1人、養護助教諭0人、栄養教諭0人	
○		教育委員会名	大和高田市教育委員会	中学校：3校
○		教育委員会名	香芝市教育委員会	中学校：4校
○		教育委員会名	広陵町教育委員会	中学校：2校

教育実習成績評価表

年度

畿 央 大 学

実習生	学科名		学籍番号	氏名
実習校	学校名		配属学級	学校長氏名
			学年 組	印
	実習指導教諭氏名		実習指導教諭氏名	実習指導教諭氏名
	印		印	印

評価の観点				評定				
学 習 指 導	基礎的な知識、技能 一般的な教養	・基礎的な知識、技能、一般的な教養を有している。 ・言葉が明瞭で、言語表現（言葉の使い方や文字の表記等）が適切である。等			A	B	C	D
	授業前の教材研究・ 指導計画	・教材研究や準備に積極的に取り組み、創意工夫しながら指導計画を立てた。等			A	B	C	D
	指導技術・態度	・生徒が興味、関心をもち、理解できるように、教材・教具を有効に活用した。 ・発問、板書、場の設定などを指導計画に基づきながら柔軟に実施できた。等			A	B	C	D
	授業後の評価・反省	・指導計画、指導について自己評価や反省を行い、次の指導に生かす工夫や努力をしていた。等			A	B	C	D
日 常 の 指 導	生徒の理解	・自分からすすんで生徒に接し、個々の生徒を理解しようと努めた。等			A	B	C	D
	個別・集団指導	・個々の生徒に対する指導や、生徒の集団に対する指導は適切であった。等			A	B	C	D
	その他の教育活動	・学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事などの指導を、意欲的・自主的に行なった。等			A	B	C	D
実 習 態 度	勤務態度・熱意	・指導教諭の指導を積極的に受け止め、実践した。 ・教育的熱意は見られた。等			A	B	C	D
	事務・実践の処理	・事務処理等が、効率よく、的確にできた。 ・各種レポート・教育実習記録・書類などを的確に記述し、期限を守って提出した。等			A	B	C	D
	教育的視野	・教育者としての自覚をもち、学校や地域の様子を積極的に理解しようとする。 ・配慮を要する生徒の実態について、必要な情報を生徒や指導教諭から積極的に集めるなど、進んでかわりをもととする。 ・種々の問題に対応できる自分のあり方を主体的に考え、実行しようとする。			A	B	C	D
実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日							
出 席 状 況	出席すべき日数	出席した日数	欠席日数	遅刻	早退	備考（欠席、遅刻、 早退などの理由）	実習生が行った 授業時数	
	日	日	病欠 日 事故欠 日 その他 日	回	回			
総合所見						総合評価		
						秀・優・良・可・不可		

- 備考
- 出席すべき日数の5分の4に相当する日数以上に出席していない者には成績評価を行わない。
 - 学習指導評価項目では、評価対象の授業を幅広くとらえ、各教科・道徳・総合的な学習の時間等を含めるものとする。
 - 10項目からなる評価項目について、「評価の観点」をもとに該当する評定に○を付けてください。
A=4点（非常に満足できる）、B=3点（おおむね満足できる）、C=2点（今後の努力が必要である）、
D=1点（評価の観点のそれぞれの基準を満たしていない）
 - 各評価の観点の総計が総合評価となります（40点満点）ので、次の換算表に照らして「総合評価」欄の該当する評価に○を付けてください。秀=35点以上、優=34~30点、良=29~25点、可=24~20点、不可=19点以下
 - 実習終了後、できるだけ早く本学に返却いただけるようお願い申し上げます。

承 諾 書

令和 4 年 2 月 2 1 日

畿央大学学長

冬 木 正 彦 殿

畿央大学 教育学部現代教育学科 の高等学校教諭（数学科）養成課程
認定の上は、本校を教育実習協力校として教育実習生を受け入れる
ことを承諾する。

学校名 奈良県立畝傍高等学校

校長 大西 英人

承 諾 書

令和 4 年 2 月 4 日

畿央大学学長

冬 木 正 彦 殿

畿央大学 教育学部現代教育学科 の高等学校教諭（数学科）養成課程
認定の上は、本校を教育実習協力校として教育実習生を受け入れる
ことを承諾する。

学校名 奈良県立高田高等学校

校長 乾 修司

承 諾 書

令和 4 年 2 月 25 日

畿央大学学長

冬 木 正 彦 殿

畿央大学 教育学部現代教育学科 の中学校教諭（数学科）養成課程
認定の上は、管内の中学校を教育実習協力校として教育実習生を受
け入れることを承諾する。

記

大和高田市立高田中学校

大和高田市立片塩中学校

大和高田市立高田西中学校

以上

大和高田市教育委員会

教育長 梶木 義敏

承 諾 書

令和 4 年 1 月 26 日

畿央大学学長

冬 木 正 彦 殿

畿央大学 教育学部現代教育学科 の中学校教諭（数学科）養成課程
認定の上は、管内の中学校を教育実習協力校として教育実習生を受
け入れることを承諾する。

記

香芝市立香芝中学校

香芝市立香芝西中学校

香芝市立香芝東中学校

香芝市立香芝北中学校

以上

香芝市教育委員会

教育長 小西 友吉

承 諾 書

令和 4 年 2 月 22 日

畿央大学学長

冬 木 正 彦 殿

畿央大学 教育学部現代教育学科 の中学校教諭（数学科）養成課程
認定の上は、管内の中学校を教育実習協力校として教育実習生を受
け入れることを承諾する。

記

広陵町立広陵中学校

広陵町立真美ヶ丘中学校

以上

広陵町教育委員会

教育長 植村 佳央